12.3&12.4
国会行動

「大幅プラス改定を」

年内最後の議員要請

協会は12月3日と4日の両日に国会行動を実施し、湯浅・二村両副理事長、藤田・小柳両理事が参加した。2日間で4名の議員と懇談。国会の会期末が迫るなか、年内最後の議員要請となった。会員から集約した「地域の医療機関を守るため、緊急財政措置と診療報酬の大幅引き上げを求める医師・歯科医師要請署名」（以下、「診療報酬引き上げを求める」署名）1千388筆を懇談議員・秘書のほか、内閣総理大臣・厚生労働大臣・財務大臣に提出した。

今回の要請内容は次の通り。①2026年度診療報酬改定において、基本診療料を中心に10%以上の大幅引き上げを行うこと、②「OTC類似薬」を保険適用から除外しないこと、及び患者に追加負担を求めないこと、③従来の健康保険証を復活（新規発行を再開）すること、または資格確認書を全ての被保険者に交付すること、④電子カルテ使用の義務化を実施しないこと―の4点。

笠議員

山崎議員

篠原議員

大塚議員

医療崩壊阻止に向け取り組む姿勢
笠浩史議員

笠浩史議員（衆・立憲）との懇談では、会員から寄せられた「診療報酬引き上げを求める」署名の意見をもとに、医療機関経営の実情を説明。また、協会の共済事業である保険医年金を例として、解約の問合せが例年より多いことから、資金繰りが厳しくなっているとも考えられるとした。笠議員は「医療崩壊しないよう、党をあげて取り組んでいく」とし、来年度予算等診療報酬も含め、維新との連立政権となった影響がどのように出てくるか注視が必要であるとした。

保険診療以外の開業医の役割に理解
山崎誠議員

山崎誠議員（衆・立憲）との懇談では、湯浅副理事長より地域における開業医の役割として、保険診療以外にも予防接種や学校医など多岐にわたる点を強調。ギリギリの診療報酬体系では疲弊してしまうとし、山崎議員も理解を示した。

またOTC類似薬の保険適用除外問題では、選定療養による追加負担の方向性が強まったことについて、選定療養はあくまでアメニティ部分であり、治療に必要な薬剤にまで適用を広げている点を指摘。その他、マイナ保険証の問題ではいまだトラブルが起き続けている点を挙げ、電子カルテについては一律義務化ではなく、医療機関ごとに選択できるようにすべきとした。

診療所経営にもきちんとした手当てが必要
篠原豪議員

篠原豪議員（衆・立憲）は医療機関の経営について、地域医療を支える診療所が経営のやり繰りに苦慮している点は理解しているとした。また11月28日に閣議決定した医療機関への補助金支給で不十分な場合は、6月の改定までの間も状況を見てさらなる補助金の支給等の対応が必要であるとし、会員から寄せられた署名については「ご意見をしっかりと読ませていただく」とした。

高い〝平均〟で引き下げ介護と同じ構図
大塚小百合議員

大塚小百合議員（衆・立憲）との懇談では、協会から実調における医科・個人立無床診の「損益差額」の平均は2千656万円だが、最頻損益差額階級の「損益差額」はわずか749万円と説明。また「損益差額」がそのまま院長報酬ではない点にも触れ、次年度改定の大幅引き上げは必須とした。大塚議員は特養の施設長を務めた経験から、高い平均利益率を理由に引き下げられた訪問介護費の基本報酬と構図が同じであるとし、診療報酬増に理解を示した。

併せて議員は、相模原市緑区では診療所やケアマネの不足等により居住困難な地域が出てきているとし、早急な対応・改善の必要性にも言及した。

◇

中西健治議員秘書
中西健治議員（衆・自民）秘書・富田氏は、政府が閣議決定した医療機関への緊急の補助金について「あくまで補正予算であり、やはり本予算での対応が必要」との見解を示した。

保団連 要請行動 署名1・8万筆提出

保団連は12月4日、「診療報酬引き上げを求める財務省・厚労省要請」を実施。財務省・厚労省からは担当者4名が対応した。

当日は全国から集まった「診療報酬引き上げを求める」署名1万8千72筆（神奈川分1千388筆）を提出した。

二村副理事長は要請の際、保団連・関東ブロック協議会で行った経営実態調査の結果を例に、「内科の落ち込みが特に厳しい。個人立の内科・無床診で見ても、事業所得が平均500万円ほど減っているのが実情で、診療所が病院と同様に減収傾向にあることは明らか」とし、大幅な引き上げを求めた。

また「保険証を返せ！国会集会」を保団連主催で開催。10名の国会議員が駆け付けるとともに、全国から寄せられた保険証の存続・復活を求める請願署名212万9千725筆を国会議員に提出した。神奈川協会からは夏以降に寄せられた署名を合計で1千224筆提出した。

物価高騰と地域医療

本当はもっと診療したかった…
30年以上続けてきた歯科医院の閉院を決意

小田原市　**歯科医院（匿名希望）**

パラジウムの市場価格は、30年以上前に開業した時と比べて大きく跳ね上がっている。にもかかわらず、保険点数の上がり幅は実売価格に追いつかない。診療報酬が殆ど上がらないので、技工所に支払う技工料も上げられない。

保険診療上必要で行っていることが評価されない、どころか点数表から削除されたものすらある。歯肉息肉除去は、昔は算定できたが、現在は基本診療料に包括されて算定することができない。手術そのものが基本診療料に包括されているので、当然それに伴って使用した浸潤麻酔の薬剤料を算定することもできない。歯冠修復・欠損補綴物を作る際、以前は必要があって作った模型の点数を算定することができたが、今は算定できないため模型作製に係る費用は全額医院負担。義歯の調整は患者によっては月に複数回実施することもあるのだが、どんなにやったとて算定できるのは月1回のみ。月2回目以降は基本診療料しか算定することができない。

一方で、医療DX関連の点数や一般の歯科診療所が行わないような大掛かりな外科手術の点数は上がっている。だがこのあたりの点数のみ引き上げられても、当院の実入りにはならない。

2024年度診療報酬改定では、医療従事者の賃上げを促進するためと「ベースアップ評価料」が導入されたが、そもそも当院は収入が少ないので常勤の職員を雇うことができず、非常勤の歯科助手を1名雇うのが精一杯。煩雑な施設基準の届出をしてまで賃上げについて考える、心理的余裕はなかった。医療機器も購入してから年数が経過しているので本当は買い替えたかったが、今の収入ではそれもままならぬ状況だ。

顔認証カードリーダーも、ネットの接続が悪く、毎日資格確認に支障が出る。業者によると、カードリーダーを繋いでいるレセプトコンピューター（レセコン）の型が古いのが原因ではないかということだった。ちょうど今、レセコンのリース期間が終わるので更新するか別のレセコンに切り替えるか決めねばならぬタイミングではあるのだが、ここで新しいタイプのレセコンをリースするとなると、今よりもかなり高いリース料を払わなければならない。最近は電子カルテ、電子処方箋の導入を促す話も出てきている。導入費用は補助金でカバーできるかもしれないが、ランニングコストは自分で賄う必要がある。果たして、次のリースまで保険診療を続けることができるだろうか。まだまだ患者を診ていきたいが…自信がない。葛藤の末、ちょうどレセコンのリース期間が終わる11月をもって、私は30年以上続けてきた診療所を閉める決断をした。できれば、あと5年は診療を続けたかったというのが本音だ。

保険医療機関の存続維持に関わる問題だ

医療費を上げてほしい。物価高騰の煽りが酷いというのに、診療報酬改定、随時改定での点数の上げ幅があまりに小さすぎると思う。それから問題は物価高騰だけではない。国が押し進める医療DXに保険証の新規発行の停止。歯科医師も患者も新しいシステムについていくのは大変だ。顔認証カードリーダーも顔を認証するのに時間がかかったり、患者も暗証番号を忘れる人も少なくない。システムで情報を読み取ると患者の氏名が費用が嵩む（ネットワーク月額利用料が発生）上に、オンライン請求できる期間も5日～10日までと短く、しかも24時間送信できるわけでもないというところに私は不便さを感じる。

病気や年齢以外の理由で泣く泣く閉院せざるを得ない医療機関が多いのであれば、国が対策を講じないといけないのではないだろうか。特に地方から医療機関が消えれば、人も都市部に流出し、地方から人がいなくなると危惧している。少子高齢化と物価高騰が進む大変な時勢ではあるが、それでも今後「保険医療機関が存続維持できるようにしないといけない、閉院する医療機関が増えないようにしてもらいたい」――これからも診療を続ける医療従事者のためにも、保険医協会から国に強く要望してもらいたい。

●（黒丸）になって読めなかったり、一部負担割合が実態とは異なっていたケースもある。システムが未熟なのに、国は顔認証カードリーダーの導入を急ぎすぎたのではないだろうか。オンライン請求の原則義務化に伴って当院も光ディスク請求からオンライン請求に切り替えたが、光ディスク請求に比べると

近年最高の協力率

署名へのご協力、ありがとうございました

9月末から12月初めまでご協力いただいた、「診療報酬引き上げを求める」署名は、最終的に1,388筆が集まりました。協力率は21.3%と、近年では最高となりました。

当該署名は、今臨時国会において、国会議員22名（秘書含む）に提出。また内閣府や厚労省・事務次官、財務省・主計局次長に直接手渡しました。懇談時には、「良心的に診療してきたが、もう限界」、「職員の給料を上げられず、優秀な人材が他業種へ流れて倒産の危機です」、「地域医療は崩壊せよと、国から言われている気がする」など会員からの悲痛な声を紹介。医療機関の窮状を伝え、診療報酬の大幅引き上げを訴えました。

この間の会員の先生方の署名協力、誠にありがとうございました。